平成28年度　第３回小松市総合教育会議　議事録

１　日　時　　平成28年11月29日（火）
　　開会　14時00分　　閉会　15時15分

２　会　場　　小松市役所3階3B応接室

３　出席者　　小松市長　　和田　愼司（議長）
　　小松市教育委員会
　　教 育 長　　石黒　和彦
　　委　　員　　北村　嘉章【欠席】
　　委　　員　　野田　美和子
　　委　　員　　蘆邉　千鶴子
　　委　　員　　吉原　愼吾

　　（事務局関係）

総合政策部長	早松　利男
総合政策部 経営政策課長	藤井　勝司
総合政策部 経営政策課主幹	出口　真澄
教育委員会事務局 教育次長	山本　裕
教育委員会事務局 シニアマネジャー	柿本　欣也
教育委員会事務局 未来の教育課長	廣田　恵子
教育委員会事務局 教育研究センター指導主事	武田　晃
教育委員会事務局 学校教育課長	波佐尾　雅人
教育委員会事務局 学校教育課担当課長	松村　清子
教育委員会事務局 学校教育課指導主事	笠巻　昭
教育委員会事務局 青少年育成課長	東谷　勝美
教育委員会事務局 教育庶務課長	吉田　均
教育委員会事務局 教育庶務課参事	池田　美和子

４　討議事項　　（１）松東地区小学校３校の統合について
　　（２）小松市のいじめ・不登校対策について

５　会議の経過及び発言

○開　会

○和田市長あいさつ

・総合教育会議がスタートしてから２年近くになるが、先を考え、学校だけでなく地域全体で教育を進めてきたところである。いろいろ課題の多い世の中ではあるが、今の子供

たち、これから生まれてくる子供たちに、小松に生まれて良かった、小松で教育を受けて良かったと言われるような仕組みをつくっていきましょう。

・小松市では保育所、幼稚園の７割が認定こども園という新しい形に移行し、県全体では３割ということから見ても、本市の幼児教育の先進性が示されていると思っている。

・大学設立に向けて進めているところであるが、この 11 月に大学設置審に上程し、順調にいけば来年の夏には認可をいただける。質の高い公立大学を目指し、地域の良き人材を育て、産業を始めとした地域の発展につながっていくと思う。

・子供たちも我々も夢を持っている。各学校でも夢を持ち、より高い具体案へ登りつめていくことを総合教育会議の合言葉にしていきたい。

○討議事項

（１）松東地区小学校３校の統合について

〈事務局：山本教育次長〉【資料１】により説明

・松東地区３小学校の統合について、地元の皆さんのご理解も得られ、新しい学校づくりに取り組んでいくことになった。

・平成 30 年 4 月から、波佐谷小学校仮校舎という形で新しい小学校がスタートする。

・世界とふるさとで活躍するグローカルな人材を育成する、小松市の先進的なモデル校となる学校にしていけるよう、我々も頑張っていきたい。

〈議長〉それでは、皆さんからご意見、ご質問等をお聞きしたい。

〈吉原委員〉３校とも、地域の人や保護者、先生方から非常に大切にされている学校ばかりだと感じる。この学校を一つにしていくのだが、それぞれの地域の人たちの気持ちをどのように汲み取っていくのか、また、どのように取り組んでいくのか、この示されているコンセプトのほかに配慮していくべきだと思う。

〈野田委員〉・本日、北村委員が欠席ということで、昨晩この案件について２人で話をしたので、その結果をお伝えしたい。

・「ふるさとと世界で活躍するグローカルな人材を」というテーマがあまりにも漠然としているので、児童や保護者、地域の方々にも分かりやすい、新しい学校づくりのより具体的なサブテーマもあった方が良いのではないか。

・統合により１小１中になるので、松東中学校とコンセプトや施策などを共有して連動していく必要があり、連携よりも一体や一貫という心構えで進めていってほしい。

・３世代が多く、自然が豊か、地域との絆が深いという特色があるので、地域性を育む新しい学校づくりを大切にしてほしい。睦習館の活用も盛り込んではどうか。

・サイエンスヒルズとの連携の中に、里山の自然を活用した体験型理科教育の推進も加えてはどうか。

・「こんな学校を創ります！グローバル・世界にはばたく力、ローカル・ふるさとを愛する心」は、市内どこの学校でも言えることであり、それだけで市内・県内から子供たちが集まる学校になるのか、もう少し特色を創ってほしい。北村委員もそのように言われて

いた。

〈蘆邉委員〉３地域の特長を活かすことが大事。公立学校という枠内にありながら、これからの新しい時代を見据え、何か一つ特化したものを持ってほしい。一番恵まれているのは英語ではないか。その方面を強化し、それを特化したテーマとして売りにできるような学校づくりを目指してほしい。

〈議長〉教育長から何かないか。

〈石黒教育長〉・コンセプトをつくった背景に、表面には出ていない隠れたキーワードがある。

・グローバル化には、日本人の気質自体を開発していくことが重要である。英語は言葉を伝達する一つのツールとしてだけでなく、外国の歴史や文化を理解していくためにも勉強していく必要があると思う。日本語の「心」という言葉は、英語では mind、soul などいろいろあり、自分のいう「心」はどの単語なのか選ぶときに、国の歴史や文化が分からないと意味がない。今から英語を勉強するときには、「心」は全て heart なのではなく、どの単語を使うのか理解できるように勉強しなければならない。

・寛容さというのは、これからの人間にとって大切であると思う。自分の知っている世界が全てではなく、自分だけが常に正しい訳でもない。別の考え方、別の正しさがあるということを、教育の中で子供たちが気付いていくことも大事である。

・人数を集めるだけでなく、いろいろな経験をしている子供たちが集まる広域通学を設定していく。

・人の話を聞いているときに、ただ聞いているだけでは理解できない。この人はどんな背景、歴史、文化の中で育ってきて、何を考えているのかを意識しながら話を聞くことが大事。いろんな体験から想像力を高めていくことが大事だと思う。

・パソコン・iPad の活用や情報収集だけではなく、主体的に自分にあった情報をいかに掴んでいくのかが大事である、ということに気付かせるＩＣＴ教育を行いたい。プログラミング教育は、自分が何を実現させたいのか、山間部の学校の中で大人と一緒に体験しながら進めていきたい。

・子供たちが自信を持って６年間、９年間を過ごし、成長できる環境を作っていきたい。

・教育の目標は人格の完成であるが、例えば単に英語を勉強させれば良いのではなく、何のために英語を勉強する必要があるのかに気付かせていくことが大事だと思うし、それが、他の学校とは違う、目に見えない学校力である。その先に、夢を掴む、夢を実現するということがあるのではないか。

〈議長〉・このテーマについては、今後も議論しなければならない。皆さんからのご意見をブレイクダウンした中で、この新たな学校を地域や小松市全域、南加賀全域から、どういう位置付けで見てもらうか、どういう教室にしていくのか、地域の特長も踏まえて話し合いたい。

・平成 30 年４月の統合なので、平成 29 年度 6 月補正予算に盛り込むとなれば、12 月とか

２月とか、もう２回ほど会議を開催したい。

〈蘆邉委員〉教育長が言われたコンセプトの隠れた内容は素晴らしく、深く胸に突き刺さった。また、市長が言われたように、近隣の市からの見方もよく考えながら進めていかなければならないと思う。

〈野田委員〉まち全体で夢を持つというお話もあったが、子供たちに「この学校に通って良かったな」と思ってもらえるような学校にするため、会議を開き、さらに内容を煮詰めていきたい。

〈吉原委員〉こういうコンセプトは変わっていくものである。先生方も教育委員会も変わっていく中、核の部分は動かしてはいけないし、そこに行き当たらなければならない。上の人、校長が変わると運営方針ややり方が変わるということは避けなければならない。深いところの杭のようなものが必要ではないかと思う。

〈議長〉・校風というか、そういうものが校歌にも反映されるのだろう。先程「山間部」という言葉を使っていたが相応しくない。この学校の立ち位置を改めて考え、この地域全体が素晴らしい所だと思われる表現をしなければならない。
・教育の詳細はここでは議論しないが、小中一貫ということをもっと前面に出してほしい。中学生のバレーボールの大会に小学生も応援に行くとか、小学校１・２年生に、中学校１・２年生がスキーを教えるとか、他の学校にはない小中一貫教育だと思う。中学生が小学生に対して優しく接し、「ああいう立派な中学生になりたい」と思うことがリスペクトにつながるのだと思う。

〈議長〉全体総括して総合政策部長から何かないか。

〈事務局：総合政策部長〉・松東地区３小学校の統合についての説明は、松東地区の小学校に限らず、小松市教育委員会の小学校像を聞いている印象であった。今回統合する小学校のコンセプトとして何を出すのか、委員の皆さんが言われたとおり、自然とか実体験とか地域に愛されているといった特長をシンプルに表せたら良いと感じた。あと１度２度と検討し、いいコンセプトにまとまれば良いという感想である。

〈議長〉引き続き、この総合教育会議で議論していくということで、教育委員会内でもぜひ詰めていっていただきたい。次の議題に移りたい。

（２）小松市のいじめ・不登校対策について

〈事務局：学校教育課指導主事〉【資料２】により説明

・いじめを積極的に認知するということをキーワードにして取り組んでおり、今年度は学校独自でいじめを発見したケースが多くなった。

・「積極的認知」のほか、「組織的対応」や「未然防止」を基本姿勢とし、警察や幼稚園・保育所などとの連携も図っている。

〈議長〉・小学６年生と中学３年生で認知件数が減少しているのには理由があるのか。

〈事務局〉・中学３年生は精神的に成長しているということもあり、人間関係の中でいじめという状況を回避し、いじめのない集団を自分たちで作れているのではないかと思う。

〈議長〉・小学６年生、中学３年生は学校のリーダー、最上級生として自我が発達するということなのだろうか。
・小さなことでも把握し顕在化させることは良いことだと思う。
・大規模校と小規模で傾向に違いがあるのか、また、加害者になる原因の中に家庭生活と関係があるのか、調査したことがあるのかを教えてほしい。

〈事務局〉大規模校と小規模校での差はないが、学校によって認知件数に差があるのは事実。加害者の家庭の状況がいじめにつながることはあると思うし、虐待傾向の子が加害に回るというケースは、小松市に限らず全国的なデータとして出ている。

〈野田委員〉組織的対応の中に一人で抱え込まないとあるが、初期対応も含まれているのか。基本姿勢として、防止することも大事であるが、被害が大きくならないうちに初期対応をしっかりしていってもらいたい。
・各学校でリーダー格となる最上級生は責任感も芽生え、模範生でなければならないと自覚し、いじめが少ないのではないかと感じた。クラスの中にみんなのまとめ役となるリーダーがいれば、自然と子供たちの中でいじめがなくなっていくのではないかと思う。
・虐待や夫婦不仲、兄弟不仲などの家庭状況によって、それを発散するために学内でいじめをしてしまうことがあると思うので、担任の先生には家庭環境にも気を配っていただき、地域の方や保護者と連携して、いじめのないまちにしていきたい。

〈蘆邉委員〉・いじめをどうやって発見していくかということが大切。各学校で先生方が注意深く見るということには時間的な制約もあり、そのような場合、アンケート調査は効果的であると思う。アンケートから捉えたことを見逃さないようにしてほしい。
・家庭で十分な愛情に満たされていないことからいじめの行為に至ってしまう子が多いと思うので、家庭とタイアップすることがとても大切なのではないか。
・とても難しい問題であるが、いじめを起こさない状況にもっていく、起こった場合は素早く学校単位で共有しながら改善の方向へ一丸となって進めていくようにしてほしい。

〈吉原委員〉・先だって横浜で起こった福島で被災した子が現金を要求され親のお金を持

ち出したという件で、横浜の教育委員会がテレビで放映されていた。いじめ問題に対して非常に危機感を持っている。

・いじめを認知する力を高め、目線をしっかり合わせていかなければならない。人が判断することであり、手遅れにならないよう１日も早く手を打っていかなければならないと感じる。

〈議長〉教育長から何かないか。

〈石黒教育長〉・ある本で読んだが、子供の持つ「Voice」が関係しているといい、自分の思いを声で発信できないからイライラして暴力を振るったりたたいたりいじめたりする。日頃から学校の先生は子供たちと言葉でつながることが大事であると感じる。

・教員によりいじめを認知していくことが望ましいと思っている。子供にとって先生は信頼できる存在であるのかを、我々は見る必要がある。アンケートも大事かもしれないが、本来なら学級の中で相談するというシステムが一番大事。また、学校と家庭は十分信頼感が持てる関係が良いと思う。

〈事務局〉・野田委員からお話のあった組織的対応について、何かあった時に一人で判断するのではなく校長を始めとしたチームでの対応のほか、ある子が廊下をうつむいて歩いていたなどの情報を集めていくことも組織的対応の一つであり、各学校では、いじめ対応アドバイザーによる講話を行っている。

・いじめ対策連絡協議会で児童相談所の方から「被害にあった子はもちろん、加害側の心も傷ついていることがあり心のケアが大事なので、学校でしっかり見ていってほしい」というお話があり、生徒指導の連絡協議会で伝えた。

〈議長〉不登校との関係も含め積極的に関わっていかなければならない。第一小学校の６年生は積極的に低学年の児童を連れて学校に行き、不登校気味の子には特に声を掛けているという。そういう子供たちが育ってきていることをうれしく思う。たくましい子供を育てていくこと、褒めていくことも大事である。

〈事務局：青少年育成課長〉子供たちが社会のためにできることをみんなの力を合わせて行い、社会に貢献していくことによって、他の人への思いやりの気持ちを育てていくことが大切であると思う。そのために、学校や家庭、地域の皆さんと取り組んでいきたい。

〈事務局：未来の教育課長〉子供は未成熟であり、いかに大人が支援していくかが大事だと思うので、学校として組織的に対応していくことが最も重要である。加害の子も被害を受けた子も、これから成長していくために学校やいろんな機関がみんなの応援をしている、みんなが正しく生きていくためにアドバイスしていることを、子供たちが実感できるような支援をしていくべきだと思う。

〈事務局：学校教育課長〉小松市では情報が上がってきた時点から組織的に対応し、教育委員会との連携の間にはほとんど時間差がない、どこかで止まらないという状況を学校と共に作ってきた。いろいろな状況を考え、もしかしたらというところにさらに目を配っていきたい。学校そのものを魅力的なものにしていくことにも取り組んでいきたい。

〈議長〉これまでに２回行った中学生サミット（ＳＮＳ対応）も、自分で考えて自分でやってみようという良い取り組みである。小学生でもやっていくことが大事。引き続き教育長を中心に教育委員会の中で議論を深めてほしい。これに必要なハード設備があるのならあげてほしい。新しい教材なのかハード設備なのか先進事例をリサーチしてほしい。

〈事務局：教育研究センター指導主事〉【資料３】により説明

・不登校はゼロになるのが望みであるが、ゼロにすることを目的としていない。
・不登校という選択をすることで自分の命を守ることができたケースもある。真面目な子ほど学校に行かなければならないと無理をして自分の心を砕いてしまうことがある。
・不登校を一つのサインと受け止め、その子の悩みや辛さを読み取ることを大切にし、不登校になった原因を解決し、学校に通えるようになり、結果として不登校がゼロになることを目指したい。
・最終的な目標として社会的自立があり、小・中学校で不登校になっても、将来引きこもりにならないような対応も心掛けていきたい。

〈議長代理：総合政策部長〉市長が公務のため途中退席したので、進行をさせていただく。不登校についての現状や対応について、委員の皆さんのご意見、ご質問等あればお願いしたい。

〈蘆邉委員〉いじめにしても不登校にしても、身近にいる大人が何かの手立てをしてあげることが必要であり、子供の事例を発掘する以上に、それを大人に自覚させることも大切なのではないかと思う。

〈吉原委員〉不登校の対応をここまでされているということを初めてお聞きした。高校進学や卒業後の進路までも見届けるという手厚さは大切だと思う。

〈野田委員〉・不登校の要因に家庭の教育力低下とあるが、学校への不信感や学校の授業についていけないなどの理由もあると思う。子供たちそれぞれのレベルに合わせて授業をするのは大変だが、できない子を放課後見てあげるとか宿題を与えるとか、手厚くしてあげたらと思う。
・親の過保護が原因で構ってもらえないと面白くないという子もいるが、そういう子をどうやって救っていけばいいのか。

・子育て講座の参加についても、ＰＴＡや保護者から来てくれない親を誘う工夫をして、そういう親御さんにこそ学校へ足を運んでほしい。
・いじめに負けない精神力・忍耐力が強い人間をつくっていってほしい。

〈石黒教育長〉・教育に対しても価値観が変わってきており、それが家庭の教育力という言葉の意味であると思う。スマートフォンを３時間以上やっている子供の親もほとんど３時間以上やっている。親が親として自立していない状況もある。
・不登校は弱いのではなく嫌なものから逃げる力が強いと言える。その嫌なものという認識を持たせないような対応が必要となる場合もある。
・不登校の子が学校に来たときにイライラや不満が暴力となり、いじめにつながる可能性もあるのではないか。学校としてはそういう子供たちの指導の仕方を研究していく必要があると思う。

〈事務局：教育次長〉・学校には、絶対不登校は出さないという強い気持ちと取り組みをしてもらいたい。不登校の子供がいる家庭はその期間本当に楽しくない。家庭の幸せを壊す大きな出来事であるということを教員はしっかり認識して取り組まなければならない。
・一旦不登校になった場合は、学校だけが全てではない、時間を掛けていろいろな生き方を探っていく可能性を、親にも子供たちにも与えていかなければならないと思う。

〈議長代理〉不登校の要因について分析したデータはあるのか。

〈事務局：教育研究センター指導主事〉昨日あった県教育委員会の県教育支援センター連絡会議で研究員の見解として上げられたもので、数値データは持っていない。

〈議長代理〉そのほか委員の皆さんから何かないか。なければ本日の会議を終了する。

○閉　会